

洞門どうもんを掘りぬくなどということができるとか、お金がかかりすぎるではないか、こんな大仕事をすれば農民が苦しくなるのではないか、——いろいろな反対意見が出されました。

家老たちの言うことをだまって聞いていた豊助は、きつぱりと顔をあげて、熱心に自分の考えをのべました。

「水不足をなくすには、猪苗代湖の水を使うしかありません。この計画はたしかに大事業で難工事なんこうじです。多くの人手ひとでを必要とします。しかし、今これをやっておかなければ、いつできるかわかりません。農民たちもきつとわかってくれます。八田野はつたのの宗吉そうきちや北滝沢きたたきざわの伊喜右衛門いきえもんなど、農民の指導者たちからも、ぜひ完成させてほしいと強い希望も出されています。どうか、この計画をとりあげてください。」

家老たちも豊助の真剣さに、だんだんと心を動かされてきました。